

「ターラさんを支援する会」の活動報告

日時:2015年6月7日(日)

場所:一宮キリスト教会

出席:執事全員出席

I.これまでの経過

- 05/12 不燃物廃棄 (◎600円)
 - 05/13 三井住友カード (×13,686円)
 - 05/14 大型ゴミ廃棄 (◎2,000円)
 - 05/18 アパート引き渡し 立会い (原状復帰費◎189,195円)
 - 05/19 シャワー蓋の取り外し
 - 05/22 プラ容器の撤去
 - 05/22 児童手当等の申請用印章作成 (◎864円)
 - 05/23 下水道費 4月~5月 (◎5,188円)
 - 05/27 ガス費 4月~5月 (×5,332円)
- (◎個人で立替支払済み)
(×請求先と折衝し支払不能で決着)

II.報告事項

1. 6月6日現在の募金残高

(1) ゆうちょ銀行	4,007,575円	
(2) いちい信金	125,409円	
合 計	4,132,984円	(★入金)

※ 支 出 の 内 訳

<円>

支出日	金額	内 容	備考
8/09	8,430	チラシ作成、一宮駅チラシ配付時の駐車場	
8/15	966	募金箱材料	
8/22	2,274	シティーバンクへの交通費、切手	
8/30	12,795	CBCラジオへの交通費、切手、封筒、トナー	
9/12	136,100	弟(二名)へのHLA検査実費、交通費、休業補償	
9/13	9,375	チラシ追加作成・切手	
10/03	75,020	妹へのHLA検査実費、交通費、休業補償	
10/08	23,000	交通費(岡崎教会・東海教会)、切手	
10/24	1,120	切手	
11/27	3,710	切手、交通費、記憶媒体	

12/09	265,032	一回目検査費（米国）	
12/12	4,285,405	臍帯血費（米国）	
12/24	2,410	交通費	
01/07	4,955	交通費、新聞郵送代他	
01/17	2,685	交通費他	
01/24	153,625	二回目検査費（米国）、交通費	
01/28	4,831,533	臍帯血費（米国）	
02/06	2,030	交通費	
02/13	67,600	一宮市民病院・日赤医療費、交通費	
02/27	2,700	交通費他	
04/10	25,298	HLA検査費用、切手	
05/01	200	上記の不足分	
05/07	★4,677,397	二回目の臍帯血費用の返戻	
12/09	4,020	交通費	
12/12	30,240	HLA検査実費	
12/15	20,000	HLA検査の休業補償費	
12/18	95,864	ドナー検査諸費用、振込手数料	
12/30	27,330	ドナー傷害保険、振込手数料、交通費他	
01/07	662,864	ドナー休業補償、付添い者の宿泊、交通費他	
01/07	3,870	交通費、駐車料、コピー費他	
01/15	1,430	交通費	
01/30	5,400	交通費	
02/04	50,088	ドナー健診費、交通費	
02/13	1,970	交通費	
02/25	★30,240	12/12のHLA検査費返戻	
03/03	2,100	交通費	
03/12	1,050	交通費	
04/16	13,310	交通費	
05/12	24,340	医療費（死亡診断書他）、交通費	
合計	6,152,502		

2. 募金の厳格管理と募金額報告

- (1) 通帳管理と帳簿記入は岩原姉が担当し、印鑑は岡本牧師が管理します。
- (2) 募金額はこの資料を配付することで報告に代えます（教会員）
- (3) 募金額は教会HPで週ごとに報告します（外部者）
- (4) 募金額は残高だけでなく、支出額も報告します。（外部者）

3. 祈り

- (1) カーラちゃんのフィリピンでの新しい生活が守られますように
- (2) 残務整理（各種手当の受給、各種費用の支払い）が守られますように
- (3) 立替金の不足が回収できますように

4. 残募金（4,132,984 円）の清算について

★「ターラさんを支援する会」設立趣意書〔7. 募金の取り扱いー（3）〕

- (1) 募金の使途は移植費用とそれに付随する諸費用とする
- (2) ターラさん個人に差し上げるものではない
- (3) 移植後に資金が残った場合は、骨髄バンクに寄付させていただく
- (4) 募金の管理・運用は「支援する会」が適正に行う

【提案】

下記の三団体に各々の金額を寄付したい

- ① NPO法人：あいち骨髄バンクを支援する会 500,000 円（事務局に届ける）
- ② NPO法人：全国骨髄バンク推進連絡協議会内
このとりマリーン基金 2,000,000 円（振込手数料別）
- ③ NPO法人：全国骨髄バンク推進連絡協議会内
佐藤きち子患者支援基金 1,632,984 円＋解約利息
(振込手数料込み)

寄付先の活動内容と選定理由

- ① 骨髄バンクへのドナー登録者を増やす活動を主に、患者家族への低廉な住まいの提供、患者への寄り添い、励ましなどを行っているボランティア団体で、ターラさんにも多くの方々が支援して下さいました。
活動資金はすべて寄付で賄っていますが、ここ数年は赤字続きで、このままだと活動そのものが維持できない厳しい状態に陥っています。（添付：前年度決算書）
- ② 骨髄バンクや臍帯血バンクの成長と医療技術の進歩により、造血細胞移植医療は多くの患者さんたちに治療をもたらしてきましたが、若い女性の場合、治療の過程で生殖機能にダメージを受け不妊になる可能性もありました。
一方で、生殖医療の進歩によって、がん患者のための未受精卵子保存などの研究が進められ、今や造血細胞移植を始める前に卵子を保存し、完治した将来に子供を持つことも夢ではなくなっています。
「このとりマリーン基金」は、そんな未来への希望をつなぐために、未受精卵子の保存、受精、着床を経済的に支援する基金です
上記①の副理事長北折健次郎さんが、治療法に着目し基金の創設に尽力しました。
- ③ 「このお金を、骨髄移植を望みながら、経済的理由で移植できない患者のために使ってください」との言葉を遺されて、佐藤きち子さんは、私たちに300万円を寄付され、その二日後に心臓発作のため平成7年（1995年）5月に他界されました。この基金は亡くなられた佐藤さんの遺志を受け、多くの皆様のご協力を得ながら運営され、1996年開始依頼、2014年8月までに215件（約7,200万円）を給付してきました。
しかしながら、昨年9月申請分から資金の枯渇により、一時休止を余儀なくされており、なるべく早い機会に再開できるよう、基金の充実が待ち望まれています。

〈文責：岩原〉